

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成23年1月27日(2011.1.27)

【公表番号】特表2010-511776(P2010-511776A)

【公表日】平成22年4月15日(2010.4.15)

【年通号数】公開・登録公報2010-015

【出願番号】特願2009-540259(P2009-540259)

【国際特許分類】

C 09 D 175/04	(2006.01)
B 05 D 1/36	(2006.01)
B 05 D 7/24	(2006.01)
C 09 D 7/12	(2006.01)
C 09 D 161/28	(2006.01)
C 09 D 161/26	(2006.01)
C 09 D 133/14	(2006.01)

【F I】

C 09 D 175/04	
B 05 D 1/36	B
B 05 D 7/24	3 0 2 T
B 05 D 7/24	3 0 3 J
C 09 D 7/12	
C 09 D 161/28	
C 09 D 161/26	
C 09 D 133/14	

【手続補正書】

【提出日】平成22年11月30日(2010.11.30)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

架橋性成分、架橋成分、少なくとも1つのジウレア化合物および少なくとも1つの層状ケイ酸塩鉱物を含むコーティング組成物。

【請求項2】

a) プライマー組成物の層を基材に塗布する工程と、

b) 場合により、溶剤の一部を除去するためにプライマー組成物の層をフラッシュする工程と、

c) ベースコート組成物の層を前記基材に塗布する工程と、

d) 場合により、溶剤の少なくとも一部を除去するためにベースコート組成物の層をフラッシュする工程と、

e) クリアコート組成物の層を前記ベースコート組成物上にウェット・オン・ウェット塗布する工程と、

f) 実質的に乾燥し、硬化したコートされた基材を提供するために前記基材および塗布層を60～約200の範囲の温度で60秒～60分間加熱する工程と

を含む請求項1に記載のコーティング組成物の使用方法であって、

前記ベースコート組成物が架橋性成分、架橋成分、少なくとも1つのジウレア、および

少なくとも 1 つの層状ケイ酸塩鉱物を含む方法。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0146

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0146】

表 4

コーティング実施例	フロップ	C F 数
15 (比較)	9.48	51.0
16 (対照)	12.05	50.5
17	11.21	53.2
18	13.19	50.1
19	10.65	50.2
20	12.81	51.1

以下に本発明の態様を示す。

1. 架橋性成分、架橋成分、少なくとも 1 つのジウレア化合物および少なくとも 1 つの層状ケイ酸塩鉱物を含むコーティング組成物。
2. 前記少なくとも 1 つの層状ケイ酸塩鉱物が、少なくとも 1 つの第四級アミンで処理されたケイ酸アルミニウム・マグネシウム鉱物を含む上記 1 に記載のコーティング組成物。
3. 前記少なくとも 1 つのジウレア化合物がベンジルアミンとヘキサメチレンジイソシアネートとの反応生成物である上記 1 に記載のコーティング組成物。
4. 溶剤希釈型コーティング組成物である上記 1 に記載のコーティング組成物。
5. 前記架橋性成分が、アクリルポリオールの総重量を基準として少なくとも 40 重量パーセントの少なくとも 1 つの線状または分岐 C 8 以上アルキルアクリレートモノマーとポリエステル延長アクリレートモノマーである第 2 モノマーとの組み合わせを含むアクリルポリオールである上記 1 に記載のコーティング組成物。
6. 前記架橋成分が、メラミン、アミノプラスチ樹脂、ポリイソシアネート、ブロックトポリイソシアネート、およびそれらの組み合わせからなる群から選択される上記 1 に記載のコーティング組成物。
7. a) プライマー組成物の層を基材に塗布する工程と、
b) 場合により、溶剤の一部を除去するためにプライマー組成物の層をフラッシュする工程と、
c) ベースコート組成物の層を前記基材に塗布する工程と、
d) 場合により、溶剤の少なくとも一部を除去するためにベースコート組成物の層をフラッシュする工程と、
e) クリアコート組成物の層を前記ベースコート組成物上にウェット - オン - ウェット塗布する工程と、
f) 実質的に乾燥し、硬化したコートされた基材を提供するために前記基材および塗布層を 60 ~ 約 200 の範囲の温度で 60 秒 ~ 60 分間加熱する工程と
を含む上記 1 に記載のコーティング組成物の使用方法であって、
前記ベースコート組成物が架橋性成分、架橋成分、少なくとも 1 つのジウレア、および
少なくとも 1 つの層状ケイ酸塩鉱物を含む方法。
8. プライマー組成物の前記層を、ベースコート組成物の前記層を塗布する前に硬化させる工程をさらに含む、上記 7 に記載の方法。